

240126

東京都心に地下シェルター整備へ 駅構内、ミサイル攻撃対策



東京都の1月26日、ミサイル攻撃対策の計画を発表した。

ミサイル攻撃対策として、都営地下鉄大江戸線の麻布十番駅（港区）に地下シェルターを整備。2024年度当初予算案に調査費として2億円。

都によると、駅構内の防災倉庫を改修する予定。食料、水などの備蓄や、非常用電源の設置も検討する。

ミサイルの爆風などから身を守る緊急一時避難施設として、地下鉄駅や頑丈な建物など計約4200カ所を指定している。1～2時間程度の利用を想定しており、長期に避難できる施設が必要だと判断した。

現在、地下鉄は避難者を改札口よりも中には入れない方針を譲らない。昭和20年3/10の東京下町の大空襲時に、地下鉄構内への避難を拒否したために10万人が死んだ。

非常時に地下鉄区内の避難を許可するように、

地元府中市の自民党代議士に要請する Mail を送った。

直ちに秘書が来て、要望を了解したとのこと。

長島昭久 自民党衆議院 内閣安全外交担当



尚、長島議員は 2/5 衆議院予算委員会に於いて、安全保障に関する見解を説明した

戦時中の London 地下鉄

プラットフォームと線路上も避難場所となっている。



有事の際には地下シェルターとなるハカニエミ駅の構内 = ヘルシンキで2022年5月23日、篠田航一撮影



Berlin 貿易センタービル 1階の RC 床は防爆構造

鹿島建設・設計施工・構造設計担当笹川和郎

提案:これから日本で必要な建築基準法の改正

・中高層建築には避難用の地下室を設置する。1階の床は防爆構造とする。

地下室のはこの建物の使用者が避難して一定期間滞在できる面積と施設を備えることとする。

尚、建築基準法が改正されれば、関連の施行令が省令として具体策が公布。

これを受けて、建築学会が設計法を作成する。

以上